

今回の研修で最も感じたのは、世界は広いということだ。研修に行く前も世界は広いという考えは自分の中にあったが、実際に世界に足を踏み入れ、今まで経験したことのない様々な事に触れたことで、改めてそのことを痛感することができた。



出発の朝



シンガポールの地下鉄



マリーナベイサンズと
マーライオン（リニューアル中）

シンガポール



赤道直下に位置するため、一年を通じて高温かつ多湿である。一年を通しての平均気温は30度で、真夏である。空港を出た時のあの蒸し暑さは今でも覚えている。

ホストファミリーの家族は6人家族で、一番印象に残っているのは下から3番目のお兄ちゃん「ファウザン F a u z a n n」（13歳）だ。彼は私を最初から優しくサポートしてくれたのだが、初めてのホームステイをする僕にとって彼の存在はとて有り難かった。ホストファミリーのアパートに来るまで到着したときに既に私の荷物を運ぶために待っていてくれたのだ。そのとき一番上のお兄ちゃんの見間違えるのど体つきがよく、一発目に「n i c e b o d y」と言ったのを覚えている。めちゃ笑っていた。

一番年上のお兄ちゃんは名前が複雑で4日間では名前を呼べるレベルまではいかなかったが、彼との思い出も多くある。名前は「k h a i r u l l a h」（16歳）

彼と彼の友達と、夜の9時～12時ごろまでパシリス付近をサイクリングした事はとても貴重な体験となった。いい自転車で、知らない街を爽快に駆け巡る心地はかなりエキサイティングで刺激的だった。





4日間通い続けたAECカレッジではその力が一番伸びた場所だったと感じている。たった4日間だったがこれが1ヶ月、1年と続けばとんでもないことになるかと予測がついた。AECカレッジに通うまでのMRTでの通勤もとても刺激的な体験だった。レッドヒルからパシリスまでの40分間のあいだに電車から見られるシンガポールの景色は印象的に残っている。

一方で、シンガポールでの食事はあまり日本人の舌には合わないと感じた。授業の後の昼食は外にある屋台で食べる感じで、味自体それほどまずい訳ではないのだが、全体的に「雑」という印象を受けた。気温30度以上の真夏の中に人がひしめき合っていてテーブルに座っており、このような屋台のご飯はとても安価で、写真のチキンライスが2.5\$=200円である。ちなみに1\$=81円程度でシンガポールドルの価値は高騰している。今回の研修ではシンガポールの発展ぶりも感じる事ができた。



マレーシア



19~21日はマレーシアのプライ村の滞在だった。



カルチャーショックをする価値は極めて大きいと思う。毎日同じ生活を繰り返している私たちが普段と違う文化に触れることは人生では大切だから、自分が知らない場所に飛び込むのが人生なのだ。いろいろな世界を見ているいろいろな人たちと出合いわかり合う事、それはきっと本当の人生を生きる喜びだから。



ラッフルズホテル



マレーシア



コーランの勉強

この7日間でさまざまな人と出会い分かり会えたのは本当の宝物になった、この貴重な体験はお金には変えられないかけがえのないものだ。